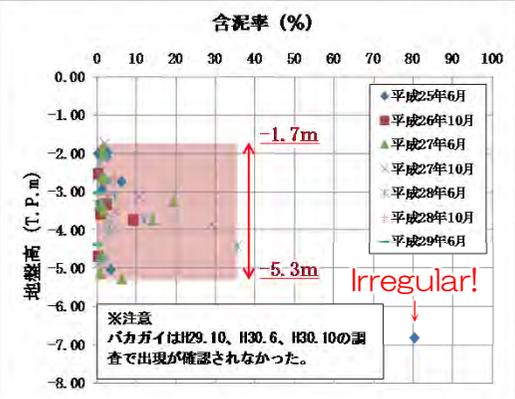


# ■ 浚渫の影響評価 ～ハビタット区分1の指標種のモデル化～

区分1の指標種のモデル化は、区分1が地盤高に関係なく砂質であることから、地盤高のみで生息可能場の予測を行った。

## バカガイ n=49

- T.P.-5.3m~-1.7mに出現
- 区分1に対して約88.2%の生息範囲
- 予測した生息可能場での出現数は31地点

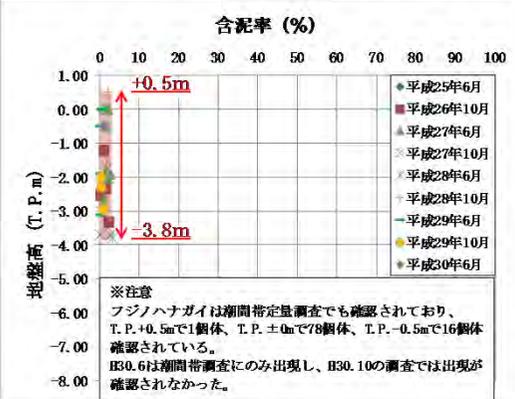


※ハビタット区分1の範囲から各種が出現した地盤高の範囲を抽出

- ①区分1の面積 : 1,668,139m<sup>2</sup>
- ②生息可能場面積 : 1,470,973m<sup>2</sup>
- ※区分1に対して88.2%

## フジノハナガイ n=27

- T.P.±0.5m~-3.8mに出現
- 区分1に対して約74.4%の生息範囲
- 予測した生息可能場での出現数は26地点

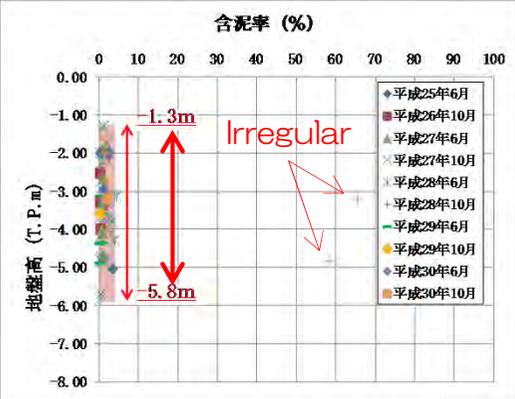


貴重種保護の観点より非公開

- ①区分1の面積 : 1,668,139m<sup>2</sup>
- ②生息可能場面積 : 1,241,876m<sup>2</sup>
- ※区分1に対して74.4%

## ヒサシソコエビ科 n=73

- T.P.-5.8m~-1.3mに出現
- 区分1に対して約93.7%の生息範囲
- 予測した生息可能場での出現数は68地点



- ①区分1の面積 : 1,668,139m<sup>2</sup>
- ②生息可能場面積 : 1,563,192m<sup>2</sup>
- ※区分1に対して91.8%